



# からしだね

2014年  
7月号 (496号)

キリストの受難  
カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父  
協力司祭：デニス・マックゴワン神父  
住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26  
TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624  
URL(ホームページ)：  
[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



国井健宏神父 金祝ミサ (6月1日)

巻頭言 .....	2	ガラスケースの言葉 .....	2
叙階50周年を迎えて .....	3	池田・日生合同研修会 .....	5
北摂地区中高生交流会 .....	6	広報委員会から .....	6
地区委員会から .....	6	からしだね俳壇 .....	7
宝塚黙想の家から .....	8	平和旬間祈念行事 .....	8

表紙写真撮影：閑歳 浩平

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

## 国井神父さまの金祝

松本一宏神父



6月1日、国井神父さまの金祝を池田教会でお祝いしていただきありがとうございました。修道会を代表して心よりお礼申し上げます。たくさんの侍者たちと共にミサを捧げられた事は大きな喜びでした（願わくはその内の何人かは将来御受難会に！）。そして祝賀会では、テーブルから溢れんばかりのご馳走、中高生が中心に準備してくれた飾り付け、すてきな似顔絵、手作りのケーキまで、どれも温かな心が伝わってくるようでした。パーティは池田教会の本領がいちばん発揮される場かもしれませんね。

人生そのものが50年経っていない私は、当然何かを50年続けるという経験がありません。それは言葉でいうほど簡単なことではないはずです。ミサでの説教を聞いていてもさまざまなお話があったのだと改めて知る事が出来ました。教会のあり方も、社会の状況も大きく異なる環境にあって、今では想像も及ばない体験であったはずで、建物の建築、人々との交わり、共同体を築く事、それぞれに喜びも難しさも味わいながら、その一つひとつが今の教会へと繋がっています。国井神父さまを始めとする長く司祭として奉仕して下さった諸先輩方が道を整えて下さったから、私が当たり前のように教会で働いていただけるのだと感じました。

お話の中で叙階を祝うという事が教会のお祝いであると強調されたのが印象的でした。司祭としての50年を長い間よく務められましたね、と単に個人のものとしてではなく、神さまが共同体に与えて下さった恵みとして感謝するという事です。そう考えると、叙階50年を祝う事は、それを祈りをもって支え、司牧の仕事と共にしてきた方々の50年を祝う事、とも言えるかもしれません。神さまの呼びかけに応じて、長い期間を歩むというのは、人間が一人でするのは難しいですが、違った形で神さまに応える人々が共にいてくださることで可能になります。

これからも池田教会ではいろいろなお祝いを共にしていくことになるでしょう（係の方にプレッシャーをかけているわけではないのでご心配なく）。神さまからいただいているお恵みをいつも喜びをもって分かち合える共同体として成長していきたいと願っています。金祝ミサで侍者をした子どもが叙階されて50年を祝うとき・・・そのときも盛大にお祝いできる教会でありますように。



## 7月のガラスケースの言葉

主なる神、あなたはまことに偉大なかた。

詩編 104—1





## 叙階50周年を迎えて

国井 健宏 CP

6月1日の「主の昇天」の池田教会のミサで、司祭叙階50周年を皆さんで祝っていただき、有難うございました。素晴らしい典礼に奉仕してくれた沢山の侍者の子供たち、教会一杯に響く聖歌の歌声、和やかな祝賀会、そしてカール記念館での食べきれないご馳走の数々・・・そのために裏方で働いてくださったお母さん方、そして式全体を用意くださった評議会の方々、素晴らしい記念になる教皇様の祝福までいただいて、まことに有難うございました。



いつも考えることがあります。叙階の秘跡によって人は司祭になるのですが、恵みは司祭個人のものではなく、教会全体のものであります。叙階の恵みと喜びは教会全体の恵みであり、喜びです。叙階記念のお祝いは、いわば私をダシ（出汁）にして、皆さんで教会の喜びを分かち合ってくださいましたのです。だんだん出涸らしになるかもしれませんが、何回でも喜んでダシになりましょうか！？？？

「主は皆さんとともに」と言いながら、皆さんを見渡す時、また聖体拝領で身近に一人ひとりの顔を見る時、25年前に（時には50年前に）タイムスリップするような感覚がありました。ちょっとしわが増え、髪が白くなった元青年会のおじさんたち、ご婦人についてはノーコメント。懐かしい顔を見ながら、そして初めての方々へ接しながら、「見たい」と思っていた人に会えなかった寂しさもありました。



思えば50年前に教会が建築された時、そして25年前にカール記念館と司祭館が建てられた時に池田に赴任していたのは、神様の摂理の働きですね。しかし建物の記憶よりも、建物が表す共同体の記憶が甦るのです。楽しいこと、嬉しいことだけでなく、悲しいことや辛い思い出もあります。それらも主の御受難と結ばれて、喜びに変えられていく・・・そして皆、池田教会の「共通の記憶」として保たれ、引き継がれていくのでしょうか。もちろん私がないときの沢山の出来事や体験が含まれています。



カール神父さまから始まった池田教会（受洗第1番は英知大学の山田先生でした）は、司祭に育てられ、また司祭を育ててきました。この共同体の歴史の一部に私も参加することができたことを、心から感謝し、誇りに思っています。

教会はキリストの体、私たちはその部分です。いつもキリストのうちに結ばれて、キリストの体としてともに成長することができますように！皆さん、ほんとうに有難うございました。





来住英俊神父様の銀祝も  
こっそりお祝いしました。





## 池田・日生合同研修会

今年度は、日生中央教会主催で、6月6日売布黙想の家、来住英俊神父様のご指導のもと池田より20名、日生より12名参加しました。会のタイトルにあるように、黙想会ではなく、研修会とあって、今までとは一味ちがった会でした。「宣教」ときくとどうしても身構えたのですが神父様のお話をうかがった後では、私も私なりにできるし、しなければいけないのだとおもいました。神父様からいただいたレジュメより抜粋させていただくと次のようになります。

- ① お話する「宣教」は、「イエスの名をしらせる」という意味での宣教であって、社会の福音化ではない。この宣教の必要を語るには、個別の人間への具体的な愛が大事。
  - ・人を動かすのは、やはり愛である。縁あって出会った人に、イエスを知ってほしい、そしてこの方を旅路の伴侶とすることによって、よい人生を送ってほしいという気持ち。
  - ・誰でも宣教の対象のはずだという考えには、具体的な人間への愛がない。「あの人がキリストを友としてくらすようになればいいな」という気持ち。あるいは、「企業の中間管理職」とか「幼稚園児を持つ母親」のように、ある具体的な状況の中で暮らしている人たちを想定する。
- ② 宣教は個人プレーではない、教会の宣教活動に参加する。宣教の仕事を分割すると、自分も参加できる道が見える。信者でない人と個人的なコンタクトをつくる。→教会に紹介する。キリスト教とはこういうものだ知らせる(書籍、公開講座)。洗礼に向かつて、いっしょに歩む。「自分はこの中のどの仕事で、教会の宣教に参加できるのか?」と考えてほしい。
- ③ 信仰の道を歩むためには、先生だけでなく、友人(peer)が必要である。信者が求道者に旅路に寄り添うための大事な道は、その人のために、個別に継続して祈ることである。

尚、来住神父様の宣教学入門の冊子が少しありますので興味のある方は、お申し出ください。  
(研修委員会 磯野)

### 合同研修会参加者の感想

○宣教について改めて考える機会を得ることが出来ました。来住神父の言葉、「愛の人であるより信頼のできる人」は心に残りました。今の自分になにが出来か? すぐに出て来ませんが常に意識していきたいと思います。また、ロザリオの祈り方も新鮮でした(今までは流れるように祈っていた気がします)。有難うございました。

●今までの黙想会と違って冊子まで頂きありがとうございます。すごくていねいで、わかりやすかったです。感謝!

○『「不思議なキリスト教」と対話する』を読ませて頂き仰天! 今までのカトリック書籍にない一般信徒向けの話が「微にいり細にわたって」かかれています。山田晶生先生のように賞をもらえるのでは～なんて俗臭ぷんぷんの感想を持ちましたが、これは神のみ旨しだい。また、今日の話では一般教養的な有益な話ありがとうございました。

●本日のテーマを見た途端、しまった! くるんじゃなかった! と思いました。何故なら宣教とは私が一番にが手とするところだからです。でもお話を聞いている内、苦手な部分は止めて、自分の喜びとを感じる部分であればいいのだ! とわかると肩の荷がおりたようなホッとした気持ちになりました。神父様ですら苦手な部分と得意分野があるとハッキリおっしゃって出来る部分をがんばるということをなさっているなら私なぞこれは出来ません! これだけやりますと大威張りで言えるとうれしくなりました。

○ものみの塔などの方々の方が家のベルを押していきなり土足で人の生活の中に割り込んで来るような宣教は憎しみすら感じてしまいますが尋ねられた時は誠意をもって答えたいとおもいます。

●一番印象に残ったのは、愛のある人よりも信頼される人になるという事です。始めは愛のある人よりも、という事が気になっていたが話を聞くうちにその意味がわかって来たので私も信頼される愛のある人間になりたいと思った。

○来住神父は宣教を「イエスの名を知らせ、洗礼を受けて教会の一員になるように招く」としてその活動全体を3つに分割すれば、①未信者と個人的なコンタクトを作る、②キリスト教の概論を読むように未信者に勧める、③洗礼に向かって一緒に歩む、のいずれかにだれでも参加できるので、無理のない宣教活動が可能になるでしょうと、ご自分の経験に基づいてお話しされた。イエス・キリストが大事にしたことを大事にする社会を目指す活動は宣教の一形態なれど、週日に開催された黙想会に参加した方は熟年者が多く、それにはパワー不足であり、未信者の相談あいてとなったり、共に歩む者となることを強調されたのかもしれないと思われた。

●信者の高齢化、信者の減少の中でこれからの教会のあり方を考えさせられた研修会でした。今、私達で出来る事、人と出会う機会を大切に他者への関心を持ち続け、祈り、人間として信頼出来る人となる事が、愛であるという事をこの研修会で学ぶことが出来ました。 神に感謝。



## 北摂地区 中高生交流会

3月29日(土)10時～15時に高槻教会にて、北摂地区 中高生交流会がありました。土曜開催とフォークミサは初めてで、役割は中高生がすべてしました。新免湧斗さんは先唱、門 芳敏さんは千里教会のメンバーと奉納をしました。島田祐祈さんも参加されました。



過ぎ越しの食事やミサの学習後の  
種なしパン作り



フォークミサ



## 広報委員会から

からしだねの編集やホームページの更新をお願い出来る方を募集しております。特にパソコンを使った作業に興味のある方は、お知らせください。



## 地区委員会からのお知らせ

6月1日の国井神父様金祝パーティにおきましては、地区担当者以外の方々も準備、後片付けなどお手伝い、ご協力いただきましたことに、感謝申し上げます。



からし ばね 俳壇

松本美口一

車椅子押す 駅員の白チシャツ  
頃合に次が出てくる 夏料理

大西冬子

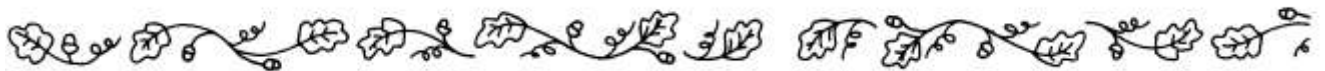
しとど 降る雨に 峰陽花彩を研ぐ  
羽織るもの 亡心れし 不覚梅雨寒し

原田寛子

木々の熟れて 執着 離れたり  
鱧の皮 大段人として 老ひし

赤甘んろ子

悲しみを 背負うて いるのか 蝸牛  
バレー 輪食卓 バラのことばかり



森山真美子

いちめんの朝のひかりに 姫些ササ丸  
榎の花 噴き出す山の白ひかば

く鳧 甲斐子

夏空へ 届かんばかり トランポリン  
小ヤキ 嘘は許されてるし 葦薈徹は黄に

馬場とよ

緑陰に羽を休める鳥のひと  
有り余る言葉を受けし 胡蝶蘭

仲和子

祈り 終へ 窓のむら 花石榴  
下枝の子 歌や日 笛 夏に入る

岩尾純枝

團井神父 祝金祝をお祝ひして

金祝の司祭の笑顔 初夏の風

ねがうひの言の基木とつ 新茶波む





## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。  
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。  
宝は大事にしたいですね。

### ■ 日帰り黙想会

7月17日(木) 10:00~15:30 指導：山内十束神父

7月18日(金) 10:00~15:30 指導：山内十束神父

### ■ 一泊 黙想会

7月19日(土) 17:00 ~ 7月20日(日)15:30 指導：山内十束神父

※ 各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで TEL. 0797-84-3111



## 《平和旬間祈念行事》のお知らせ

日時 8月10日(日) ミサ後開始

場所 カトリック池田教会 聖堂

講師 飯塚 重俊先生 (伊丹教会所属)

略歴：高校・短大の教師を50年間務め、専攻は哲学と音楽評論。

特に音楽論文には力を入れられており、受賞歴有り。

聖母被昇天学園に於いて14年間教頭を務められた。

題目 《特攻隊 少年兵》

※ 飯塚先生は戦時を生き抜かれた方です。生きたお話を拝聴出来る事は、私達世代そして若い世代にとっても大変貴重な事であり、なるべく多くの方々に参加頂き、戦争なき平和な世界への思いを各々心に落として頂ければ幸いです。

講演所要時間は約40分~1時間程度です。

(社会活動委員会)



## 編集後記

以前見た報道の中で、フリースクールの話が上っていました。

ひとりの青年が中学生時代に不登校になり、この高校に転校してきたのです。そこである先生に出会い、この方の指導の下にプロレスを始めます。それを通じて、彼は相手を受ける痛みを思い、人を思いやる気持が持てるようになった。観客の喜ぶ姿に、自分は人の役に立てるんだと思った。と言うのです。そうして卒業の日を迎えた彼は、これから親に心配をかけないように生きたい。日々の生活を通して学んだことを忘れず歩んで行きたい。という言葉で卒業の挨拶にして大学へ進みます。

ある体験を通してひとりの青年が立ち直っていく。彼の元気が取り戻され、思いやる心が持てるようになった。他者のために働く喜びも貰ったのです。その思いに至る道も神様から与えられたもの。いただいた徳への喜びを実感し、それらのことを反映させる人生をこれから歩んで行ける。神のうちには、人を希望へ導く余りある大きな手段がある。それは人には想像できない、意外な事柄から齎されることを思うと、決して希望を失うことはない。

困窮している人、すべての人が、主に望みをおくことの喜びに与り、どんな時も希望を失いませんように。

(セシリア)